

特選神名牒

加賀國四十二座

並小 ○今石川縣管下

○江沼郡十一座 並小

篠原神社

祭神 天兒屋根命

祭日 三月九月十五日

社格 村社

所在 篠原村(江沼郡篠原村大字笹原)

刀何理神社

祭神

祭日

社格

所在

御木神社

祭神

今按祭神不詳今貴船白鬚松尾三座とあれ共恐らくは誤れり古語拾遺に建部標原經營帝宅仍令天富命^{太玉命}之孫^手置帆負彦狹知二神之孫以齋齋齋始探山材構立正殿云云探材齋部所居謂之御木造殿齋部所居謂之齋香とあるは紀

伊國の事なれ共本社鑪座の地を右村と云ひ隣邑上木村は往古檜樹繁生し尤良材を産せし故御木村と云けんを右村と誤りしものなるべし

祭日 三月九月十六日

社格 村社

所在 右村字堂谷(江沼郡三木村大字右)

宮村所部神社

祭神

今按祭神不詳一説に攝日方命と云り姓氏錄に石邊公大物主命男久斯比賀多命之後也とあれば據ありて聞ゆ姓附て考に備ふ

祭日 三月十五日九月二十五日

社格 村社

所在 宮村(江沼郡黒崎村大字宮)

服部神社

祭神

祭日

社格 郷社(明細帳に縣社とあり)(縣社)
所在 山代村(江沼郡山代村大字山代)

菅生石部神社

稱菅生天神
又敷地天神

祭神

今按祭神未詳今穗々手見尊豐玉毘賣命鶴草葺不合尊の三座とすれど信がたし石部神と云ふに因らばこも天日方攝日方命にはあらざるか

神位 陽成天皇元慶七年十二月二十八日庚申加賀國菅生神授正五位下朱雀天皇天慶三年正月十五日奉授加賀國從四位上菅生神正四位下^{天慶以下}日本紀略

祭日 正月十日六月二十四五六日

社格 縣社(國幣小社)

所在 敷地村(江沼郡福田村大字敷地)

今按本社舊記に加賀國二宮社傳に云往古菅生村に鑪座後敷地村に遷座すと云りされど菅生敷地の二邑もと一地にて上古已來の社地なるべし敷地とは此神の敷坐す地なる由と聞ゆれば也

忌波神社

祭神 倉稻魂命 稱穗之宮

神位 仁明天皇嘉祥二年十月庚寅奉授加賀國忌波(原書作卷)神從五位下

祭日 二月十日八月二十二日九月十五日

社格 郷社(縣社)

所在 弓波村(江沼郡作見村大字弓波)

日置神社

加賀國 江沼郡

祭神

祭日

社格

所在

今按神社殿錄に片谷村とし注進狀に坂下村の隣邑片谷村と云り一説に片谷は日置谷にて往古は此谷の總名なり今片谷坂下兩村の經界に砥倉明神と稱する社跡あり是日置神社の社地なり今此社地の土石を取去ものあれば神威を著して必ず大風吹起ると云りいかにも此社地古への日置神社なるべく思はるされど一説に砥倉明神は式刀何理神社の誤り共云れば今決めかたし

出水神社

祭神

今按祭神未詳里俗八幡宮と稱すれども八幡の神にはあるべからず

祭日 三月九月二十五日

社格 郷社

所在 橋立村^{字懸}揚山(江沼郡橋立村大字橋立)

今按往古同村出水の間と稱する地に鑪座の處波濤に没す故に同村出水山に遷座すと云り

氣多御子神社